

経営概要書

法人名：

大館能代空港ターミナルビル 株式会社

(株10)

1 法人の概要

| | | | |
|---------------|--|-------------|----------------------------|
| 代表者職氏名 | 代表取締役社長 津谷 永光 | 所管部課名 | 観光文化スポーツ部交通政策課 |
| 所在地 | 北秋田市脇神字葉岱21番地144 | 設立年月日 | 平成7年11月16日 |
| 電話番号 | 0186-62-5330 | ウェブサイト | http://onj-airterminal.com |
| 主な出資 (出捐)者 | 出資(出捐)者名 | 出資(出捐)額(千円) | 出資(出捐)比率(%) |
| | 秋田県 | 148,500 | 30.0% |
| | ANAホールディングス(株) | 68,000 | 13.7% |
| | その他9市町村17団体 | 200,500 | 40.5% |
| | 自己所有 | 78,000 | 15.8% |
| | 合計 | 495,000 | 100.0% |
| 設立目的 | 空港ターミナルビルは、公共交通(航空機の運航・航空旅客支援)を担う施設であり、高い公共性を求められることから、秋田県をはじめ周辺自治体、航空会社及び流通、地元経済界の出資する株式会社として設立された。 | | |
| 事業概要 | 運航支援施設としてのターミナルビル運営、同施設・設備の賃貸、施設内広告宣伝、道の駅の運営 | | |
| 事業に関連する法令、県計画 | 空港法、秋田県総合交通ビジョン | | |

2 平成29年度事業実績

乗降旅客数は138,584名(前期比105.4%、+7,067名、搭乗率61.1%)となり5期連続の増加。東京線単独としては平成27年度から引き続き過去最高を記録し、目標としていた13万5千人を超えた。国内線チャーター便も9便就航(前期6便、444名)。一方、竣工後20年を経た建物設備保守の継続実施により、円滑な空港運営と安全の確保を図ったほか、館内照明のLED化による省エネルギー化にも努力した。また、JNTO(日本政府観光局)認定外国人案内所への登録や顧客満足度調査の実施(前年比3ポイント上昇)、オリジナル商品「秋田犬ぬいぐるみ」の開発、「秋田犬オブジェ」設置など、新たな話題発信による集客増強を図った。

<事業目標>

| 項目 | 区分 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|----------|----|---------|---------|---------|---------|
| 経常収入(千円) | 目標 | 240,000 | 240,000 | 240,000 | 240,000 |
| | 実績 | 232,814 | 232,256 | 234,315 | — |
| 乗降客数(人) | 目標 | 125,000 | 130,000 | 135,000 | 142,000 |
| | 実績 | 123,773 | 131,517 | 138,584 | — |
| 顧客満足度指数 | 目標 | 70 | 80 | 80 | 80 |
| | 実績 | 79 | 73 | 76 | — |

3 組織

①役員数(H30.7.1現在) (単位:人)

| 区分 | 取締役 | | 監査役 | | 役員報酬 |
|--------|-----|-----|-----|-----|---------------------------------------|
| | H29 | H30 | H29 | H30 | |
| 常勤 | 1 | 2 | | | 支給対象者 (H29年度) 1人 平均年齢 64歳 |
| 内、県退職者 | 1 | 1 | | | |
| 内、県職員 | | | | | |
| 非常勤 | 6 | 5 | 2 | 2 | 平均報酬年額 (H29年度) 4,800千円 |
| 内、県退職者 | 1 | 1 | | | |
| 内、県職員 | 1 | 1 | | | |
| 計 | 7 | 7 | 2 | 2 | |
| 内、県関係者 | 2 | 2 | | | |

②職員数(H30.4.1現在) (単位:人)

| 区分 | H29 | H30 | 正職員 |
|--------|-----|-----|----------------------------|
| 正職員 | 4 | 3 | |
| 出向職員 | 1 | | |
| 臨時・嘱託 | 5 | 6 | 平均勤続年数 14.3年 |
| 計 | 10 | 9 | 平均年収 (H29年度) 6,470千円 |
| 内、県関係者 | | | |

③取締役会回数

| | | | |
|--------|---|--------|---|
| 平成28年度 | 4 | 平成29年度 | 4 |
|--------|---|--------|---|

4 財務

①損益計算書 (単位:千円)

| 区分 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|-------------|---------|---------|
| 売上高 | 232,256 | 234,315 |
| 売上原価 | 6,299 | 7,625 |
| 売上総利益 | 225,957 | 226,690 |
| 販売費及び一般管理費 | 183,832 | 189,238 |
| 人件費(売上原価含む) | 54,248 | 59,028 |
| 営業利益(損失) | 42,125 | 37,452 |
| 営業外収益 | 278 | 224 |
| 営業外費用 | 5,720 | 4,739 |
| 経常利益(損失) | 36,683 | 32,937 |
| 特別利益 | 9,608 | 4,349 |
| 特別損失 | 10,624 | 4,142 |
| 法人税、住民税・事業税 | 12,985 | 11,871 |
| 当期純利益(損失) | 22,682 | 21,273 |

②貸借対照表 (単位:千円)

| 区分 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|---------|-----------|-----------|
| 流動資産 | 363,137 | 390,874 |
| 固定資産 | 636,891 | 616,817 |
| 資産計 | 1,000,028 | 1,007,691 |
| 流動負債 | 69,641 | 86,010 |
| 短期借入金 | 35,720 | 35,720 |
| 固定負債 | 184,498 | 154,518 |
| 長期借入金 | 153,110 | 117,390 |
| 負債計 | 254,139 | 240,528 |
| 資本金 | 456,000 | 456,000 |
| 利益剰余金等 | 289,889 | 311,163 |
| 純資産計 | 745,889 | 767,163 |
| 負債・純資産計 | 1,000,028 | 1,007,691 |

(単位:千円)

| 退職給与引当状況 | 要支給額 | 引当額 | 引当率(%) |
|----------|--------|--------|--------|
| | 30,886 | 30,886 | 100.0% |

<主な経営指標>

| 項目 | 算式 | 平成28年度 | 平成29年度 | H28-29増減※ |
|---------|------------------|--------|--------|-----------|
| 経常収支比率 | 経常収益÷経常費用×100 | 118.7% | 116.3% | △2.4 |
| 流動比率 | 流動資産÷流動負債×100 | 521.4% | 454.5% | △67.0 |
| 自己資本比率 | 純資産計÷負債・純資産計×100 | 74.6% | 76.1% | 1.5 |
| 有利子負債比率 | 有利子負債÷純資産計×100 | 25.3% | 20.0% | △5.4 |

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

5 県の財政的関与の状況 (単位:千円)

| 区分 | 平成28年度 | 平成29年度 | 支出目的・対象事業概要等 |
|---------------|--------|--------|----------------------------------|
| 年間支出 | | | |
| 補助金 | 9,259 | 2,726 | 「秋田犬の里魅力アップ推進事業」秋田犬写真展示、中庭オブジェ制作 |
| 委託費 | | | |
| 指定管理料 | | | |
| 年度末残高 | | | |
| 貸付金 | | | |
| 損失補償 | | | |
| その他の財政支出(基金等) | | | |

I 自己評価

| 1 公共的役割 | 2 組織体制 | 3 事業実施 | 4 財務状況 |
|---|---|--|---|
| A 平成30年3月に大館能代空港ICが開通したことにより、秋田県内のみならず青森県からのアクセスがより円滑になるなど、これまで以上に人、モノ、情報の集まる場所として広く活用されることが見込まれる。 | B 平成29年度末に1名の定年退職者が見込まれたことから、年度当初に社員1名を採用し、組織運営上の知識や経験の継承を図っている。 | B 主たる事業である不動産業の拡大や収入増の見通しが厳しい中で、オリジナル商品「秋田犬ぬいぐるみ」の開発等により集客と売上を向上させた。また、乗降客数は目標としていた13万5千人を超え138,584名であった。 | A 固定的な賃料収入が9割を占め、安定した財務状況を継続している。今後も、老朽化しつつある建物や設備の計画的な予防保全と維持、管理に努めながら、中期経営計画に基づき安定経営を確保していく。 |

II 所管課評価

| 1 公共的役割 | 2 組織体制 | 3 事業実施 | 4 財務状況 |
|--|---|---|---|
| A 大館能代空港は、空港IC開通によりアクセスが向上し、北東北の中心に位置する空の玄関口として、これまでに以上に同地域の周遊観光に大きな役割を果たすことが期待される。 | B 取締役会を年4回開催し、経営方針や年間業務目標に対する進行管理を適切に行っている。社員は部門ごとに適切に配置されているが高齢化が進んでおり、今後も安定した業務運営を行う上で、職員の新規採用・ノウハウの伝達が不可欠である。 | B 目標として、大館能代空港利用促進協議会が掲げている空港利用者数を設定し、道の駅機能を有する空港として様々なイベントを開催し、空港の利用促進に取り組んだ結果、平成29年度の目標値13万5千人を達成した。 | A 平成29年度当期純利益は21,273千円で、利益剰余金は施設整備積立金を含め311,163千円であり、健全な経営状況にある。 |

III 外部専門家のコメント

固定収入が中心であり、業績は安定している。26年度以降は、継続的に20百万円以上の当期純利益を計上してきており、積み重なった利益剰余金は3億円を超え311百万円となった。長期借入金も徐々に減少してきており、財務体質は健全である。乗降客数も増加傾向にあり、安定経営にあるといえるが、今後は多額となる固定資産の経年劣化による修繕費負担に備えていく必要がある。

IV 委員会評価

| 1 公共的役割 | 2 組織体制 | 3 事業実施 | 4 財務状況 |
|--|--|--|--|
| A 三セクの行動計画上は「本来県が実施すべき事業を主たる事業とする法人」に位置づけられている。空港ターミナルビルは、空港法の空港機能施設の一つであり、公共的役割は大きい。 | B 常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。充て職役員の取締役会への欠席が見受けられ、今後、適切な関与が期待される。 | B 乗客者数は増加傾向にあり、引き続き、関係機関等との連携により、空港利用促進に向けた取組のほか、空港全体の利便性や顧客満足度の向上に資する取組が期待される。 | A 単年度経常黒字を維持し、財務基盤は安定している。引き続き、老朽化による修繕費等の負担に備えていくことが求められる。 |

V 前年度委員会評価

| 1 公共的役割 | A | 2 組織体制 | B | 3 事業実施 | B | 4 財務状況 | A |
|---|---|--------|---|--------|---|--------|---|
| <p>評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた取組（概要）</p> <p>組織体制については、年4回開催している取締役会にできるだけ多くの取締役が出席できるよう開催日の調整に努めた。</p> <p>事業実施については、県及び利用促進協議会と連携して利用促進に取り組んだ結果、乗降客数の目標(135,000人)を達成した。</p> <p>顧客満足度については、目標値には届かなかったものの、前年より3ポイント上昇している。</p> | | | | | | | |